

抄 録

所属名 8 病棟

研究テーマ：白癬菌に対する茶カテキンを利用した足浴の検討

研究者名：

はじめに

関節リウマチ患者は、副腎皮質ホルモン剤を内服していることが多い。関節・骨の拘縮や変形により清潔保持が難しくなることも多く、外科的治療も行われるため白癬菌ケアは重要と考える。当院は、白癬菌症状のケアで強酸性水を使用している。1996年、緑茶を利用した入浴・清拭の研究がなされ、白癬菌に対し有効であったと報告された。今回、先行研究を参考に茶カテキンと、強酸性水を利用した足浴を比較し、白癬菌に対する茶カテキンの足浴効果を検討したので報告する。

目的) 白癬菌への茶カテキンの抗菌作用を利用した足浴の有効性を検討する。

方法) 期間：平成 16 年 7 月 13 日～平成 16 年 10 月 8 日

対象：入院患者で、白癬菌症状があり白癬菌検査 (KOH 直接鏡検法) で菌が認められ、抗真菌剤の使用がなく、研究に同意が得られた患者 7 名。足浴内容は無作為に選別、茶浴 4 名、強酸性水浴 3 名。

方法：茶カテキン (EGCg カテキン濃度 50ppm 使用)、強酸性水の足浴を毎日行い、1 回/週、白癬菌症状と白癬菌検査で菌の有無を調べる。先行研究を参考に、当病棟で症状のレベルを作成し判定する。検査で菌の検出がなかった場合、検査提出時皮膚片が採取出来なかった場合を白癬菌 (一) とした。(一) となった後 1 ヶ月間 (一) 時実験終了とした。

結果) 茶浴は 4 名行い、両足趾 (一) は 1 名、片足 1 名だった。他 2 名は、(一) にならなかったが、開始時よりレベル、症状は減少した。強酸性水浴は 3 名行い、両足趾 (一) 1 名、片足は 1 名だった。もう 1 名はレベル、症状が減少した。茶、強酸性水ともに症状の悪化はなかった。

考察) 茶浴、強酸性水浴ともに、白癬菌に対し有効という結果が得られたが、先行研究で証明されたほどの有効性は得られなかった。先行研究で使用された総カテキン濃度 250ppm、今回使用した茶カテキン濃度 50ppm という濃度の違いが関係していると考えられる。対象者が治療により、副腎皮質ステロイド剤や免疫抑制剤を内服していたことではないかと示唆される。今回の結果から、茶カテキンを利用して白癬菌ケアができると考えられる。本研究は足浴実験のみで終了した。今後は実験終了後の経過も調査する必要がある。

結論) 茶カテキン、強酸性水共に白癬菌ケアに対して有効である。